

おわりに

ニホンザルの被害は、農業被害や生活被害、精神被害に加えて、近年では、ハナレザルによる市街地への出没が全国で増加し社会問題化しています。一方、少子高齢化、人口減少する農山村地域ではサルを含む鳥獣被害対策に手が回らず、地域による課題が山積しています。兵庫県のニホンザルは6地域に14～15群が生息していますが、個体数は少なく分布は孤立しています。兵庫県はニホンザルを絶滅させないよう保全しながら農業被害を軽減させる必要があり難しい管理が求められています。

兵庫県森林動物研究センターでは設立後、群れ数と個体数、行動圏、集落の出没状況、群れの加害レベル、遺伝情報についてモニタリング手法を確立させました。

そして被害対策において、監視員による群れ位置情報の配信と追い払いの啓発、サル用電気柵（おじろ用心棒）の普及、問題個体の除去を重点的に実施してきました。これらの成果の一部は、既に2013年に発刊された兵庫ワイルドライフモノグラフ5号にまとめられています。その後、9年が経過し、被害防除の効果が少しずつ現れ始め県内のニホンザルによる被害額は減少しています。しかし、これまでのモニタリングデータや被害の状況から新たな課題も見えてきました。第1章では、日本全国のニホンザルの管理計画を概観し、兵庫県の管理の手法を評価しました。第2章では、第1章の評価を踏まえて兵庫県の管理計画の概要を解説するとともに、今後の課題を整理しました。第3章では、被害対策が進んだ地域がある一方で対策が遅れている地域もあり、その要因について報告しました。第4章では、新たな絶滅確率算出の手法を開発し、将来の群れの絶滅確率を求める手法の課題を整理しました。第5章では、GPS発信器による新たな群れのモニタリング手法の成果を報告し、サル用防除柵（電気柵）設置率が高い集落では群れの滞在時間は短いことを報告しました。第6章では、兵庫県篠山地域個体群は、府県市町にまたがり分布し行動していて、府県市町との間で連携のない管理や対策は被害解決が進みにくいことから大丹波地域サル対策広域協議会が設立されました。その活動について報告しました。

兵庫県では今後も引き続き、モニタリングを継続しながら保全と管理の両面から課題に取り組む予定です。

最後にモニタリングや被害対策を実施する上で、データやサンプル収集、そして普及啓発でご協力いただいている、市町担当のみなさま、その他関係機関のみなさま、地域住民のみなさまに厚く御礼申し上げます。

兵庫県ワイルドライフモノグラフ 編集委員会
編集責任者 森光 由樹